

第4回国際芸術・学術拠点構想研究会(A&S研究会)
開催記録

日時:2020年5月26日(火) 18:00-19:40

開催方式:Zoom会議

出席:26名

記録:山田美香

講演:小野田弘士

「地域エコシステムの視点からみた国際芸術・学術拠点構想の意義」

司会:秋光信佳

参加者:26名

国際芸術・学術拠点構想研究会メンバー:15名

研究会代表:

松岡俊二:早稲田大学大学院アジア太平洋研究科教授(環境経済・政策学)

研究会副代表:

秋光信佳:東京大学アイソトープ総合センター教授(生命科学)

メンバー(ABC順):

安部 良:安部良アトリエ一級建築士事務所代表(建築)

青井哲人:明治大学理工学部教授(建築史)

船曳 淳:株式会社三菱総合研究所アライアンス推進室

洪 恒夫:東京大学総合研究博物館特任教授(空間デザイン)

松永美穂:早稲田大学文学学術院教授(ドイツ文学&翻訳論)

宮野 廣:日本原子力学会福島第一原子力発電所廃炉検討委員会・委員長(原子力工学)

森口祐一:東京大学大学院工学系研究科教授(環境システム工学)

永井祐二:早稲田大学環境総合研究センター研究院准教授(環境工学)

中谷礼仁:早稲田大学理工学術院創造理工学部教授(建築史)

岡田久典:早稲田大学環境総合研究センター上級研究員(地域環境論)

小野田弘士:早稲田大学大学院環境・エネルギー研究科教授(環境システム工学)

山本麻紀子:京都市立芸術大学構想設計専攻・非常勤講師(アーティスト)

吉田恵美子:NPO法人 the People 理事長・いわきおてんと SUN 企業組合代表理事

[欠席]

芥川一則:福島高等専門学校教授・学科長・副校長(都市経済学)

長谷川祐子:東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科教授(現代アート)

寿楽浩太:東京電機大学工学部准教授(科学技術社会学)

中嶋聖雄:早稲田大学大学院アジア太平洋研究科教授(文化社会学)

坪倉正治:福島県立医科大学特任教授(公衆衛生学)

オブザーバー参加:6名

事務局:

李 洸昊:早稲田大学大学院環境・エネルギー研究科助教

中野健太郎:早稲田大学大学院環境エネルギー研究科

Yunhee CHOI:早稲田大学大学院アジア太平洋研究科

朱 鈺：早稲田大学大学院アジア太平洋研究科

山田美香：早稲田大学大学院アジア太平洋研究科

議題：

開会挨拶：松岡俊二（研究会代表、早稲田大学大学院アジア太平洋研究科教授）

新メンバーである、吉田恵美子さん（NPO 法人 the People 理事長・いわきおてんと SUN 企業組合代表理事）の紹介を行う。

議題 1. 第 4 回国際芸術・学術拠点構想研究会

小野田弘士(早稲田大学大学院環境・エネルギー研究科教授)

「地域エコシステムの視点からみた国際芸術・学術拠点構想の意義」

・前半は、地域エコシステムについて、様々な地域の具体的事例を用いて、説明が行われた。エコシステムの視点、プロジェクト創出のアプローチ例、スマート・シティプロジェクトにおける市民不在、行政・地域ニーズと民間のギャップ、供給側への偏在性という課題も含めて提示された。

・後半は、前半を受け、地域エコシステムの視点から国際芸術・学術拠点を考え、いくつかの鍵概念を提示し、Art & Science (+Design & Engineering)の強み、そして、地域エコシステムでのコアの位置づけの可能性が示された。

・さらに、研究会において、「拠点」の意味・共通認識の必要性の指摘がされた。「見える化・見せる化」という建築物・構造物としての拠点、「まちづくり・まちそだて」の場という拠点、拠点で発信するののかというコンテンツ、拠点で何をするのか、21 世紀のダ・ビンチの思考できる人の育成、が示された。

質疑および議論

議題 2. 今後の予定について

下記の予定を確認した。

第 5 回 2020 年 6 月 9 日(火)18:00-19:30

山本麻紀子（アーティスト、京都市立芸術大学非常勤講師）

「巨人プロジェクトを語る」

第 6 回 2020 年 6 月 23 日(火)18:00-19:30

洪 恒夫（東京大学総合研究博物館特任教授）

「アートとサイエンスを結ぶデザイン」

第 7 回 7 月前半

中嶋聖雄（早稲田大学大学院アジア太平洋研究科教授）

「震災アーカイブの試みから学術と芸術の関係を考える」（仮）

第 8 回 7 月後半

松岡俊二（早稲田大学大学院アジア太平洋研究科教授）

「中間報告（提言）について」